



今年度も一年間、本校の教育活動に御理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。
来年度も一層充実した教育を行いますので、引き続き御支援のほどをお願いいたします。

〈第46回卒業証書授与式〉

3月1日(水)、第46回卒業証書授与式が挙行されました。

入学直後、コロナ禍で2ヶ月間の長きにわたる休校を余儀なくされた第46回生は、その後約2年間の各種教育活動や学校行事の縮小期間を経て、3学年でようやくほぼ以前の形に戻った学校生活を経験することができました。そしてこの卒業式は、高校生活の中で初めて「マスクなし」で参加することができる式典となりました。

苦しい期間を過ごしながらも、通常の学校生活を取り戻そうと主体性を持って生活を送り、以前の活気ある行事の復活に尽力しただけでなく、次の世代につなぐ役割をも果たした第46回生。卒業式に参加する生徒たち一人一人の顔には、3年間をやりきったという満足げな表情が浮かんでいました。

本校を巣立っていく卒業生への、高橋 時明 校長の式辞を抜粋してご紹介します。



卒業生の皆さん、卒業おめでとう。皆さんはそれぞれの夢の実現に向け、この向陵の地で3年間、勉学や部活動、そして学校行事にと一生懸命励み、本日をもって本校の教育課程を全て修了致しました。思い起こせば3年前、全国に新型コロナウイルス感染拡大に伴う非常事態宣言が発令され、皆さんは入学直後に2ヶ月にもおよぶ異例の臨時休業を余儀なくされ、大きな不安を抱きながらの高校生活の始まりでした。多くの学校行事や部活動に係わる大会が全て中止となり、青春を謳歌するどころか制約のある教育活動を強いられ、無味乾燥な学校生活へと化してしまいました。2年生では感染症どううまく共存できるようになり、修学旅行など高校生活のかけがえのない思い出となる学校行事が、規模を縮小しながらも徐々に再開できるようになりました。そして、この1年は、体育大会や向陵祭などの生徒主体の学校行事を、本来に近い形で、皆さんがイニシアチブを取って執り行い、これまで脈々と受け継がれてきた伝統をしっかりと後輩達に引き継いでくれました。

12年前、小学校への入学直前にも「東日本大震災」が発生し、皆さんは人生の節目節目に未曾有の大災害に見舞われ、人生はとかく平易安泰なものではなく、山あり谷ありの逆境の連続であると、だれもが身をもって感じていることでしょう。人は難局を切り抜けていくたびに成長していくもの。この苦難にもめげず、皆さんのこれまで尽くしてきた努力と研鑽を、心から讃えたいと思います。そして、皆さんが次のステージでさらに成長し、将来、地域社会の課題の解決と発展に大いに貢献し、より豊かな社会を作りたいことを願い、次の三つのこととお話します。

第一に、「感謝の心をもって、誠実に生きてほしい」ということです。今、皆さんは立派に成長し、この学び舎を巣立とうとしています。皆さんが手にしたものは、紛れもなく皆さん自身の努力の成果です。しかし、家族や地域の多くの方々の、支えや励ましがあつたこと、この学び舎で出会い支え合った多くの仲間がいたことを忘れないでほしい。これから先も、新たな環境で多くの人と出会い、お世話になることと思いますが、ぜひ、謙虚な姿勢と感謝の心を素直に表現できる人になって下さい。そして本校の校訓が示す「和敬」の精神を重んじること、すなわち、心を穏やかにして慎み相手を敬うことで、温かい人間関係と豊かな人生が築けることでしょう。

第二に、「自分の中の優れた所を見つけ、磨き伸ばして欲しい」ということです。人には一人ひとりに備わった個性があり、長所があります。皆さんの中にはこの3年間で、多様なものの見方・考え方が養われ、思考力や表現力が培われたことで、秘めら

れた才能を見つけた人もいます。しかし、まだ本来の力を見つけれないでいる人も多くいるのではないのでしょうか。これから皆さんは新たな人生の目標に向かって進んでいくことになります。新たな環境で、新しい事に挑戦し、自ら求め学ぶ中から自分の能力を再発見し、それを磨き伸ばすことで、それぞれに秘められた無限の可能性を开花させてください。

第三に、「これからも夢を持ち続けてほしい」ということです。人は夢を持つことで、その実現に向けた思いを強くし、目標となるハードルを一つひとつクリアしながら、大きく成長していくものです。今日の「卒業」もその一つです。今社会は「AI」や「IoT」などの技術革新により、社会全体のデジタル化・オンライン化が急速に進み、情報化やグローバル化が加速化する社会「Society5.0」へと移行しようとしています。このような激変する社会を生き抜くためには、人として本当に必要な知恵と力をしっかりと身に付け、新たな環境で「自分が何を為すべきか」を自ら考え、判断し、行動していかなければなりません。そのためにも自分が目指す将来像を明確にし、夢を持ちながらこれからも深く学び続けることが大切です。

結びに、これから新たなステージへ旅立とうとしている卒業生の皆さん、これまで本校で培ってきたことに自信と誇りを持ち、それぞれの夢へと続く長い道のりを一步一步着実に歩みながら、自らの力で未来を切り拓いていくことを心から願います。

当日は、多くの来賓の方々にも御出席いただきました。PTA 会長の前嶋慶子様からは、卒業する生徒たちに向けて、コロナ禍の苦しかった学校生活に触れながら、「皆さんが今、当たり前だと思っていることは、本当は当たり前になっていることではないのです。皆さんの活躍の陰には、多くの方の支えがあったことを忘れないでください。その方々への感謝の気持ちを忘れず、未来へ羽ばたいていってください」と御祝辞をいただきました。

在校生からの送辞では、生徒会長の山田央一郎さんから、強い芯を持ち、優しさと厳しさをもって下級生を導いてくれたこと、体育大会や文化祭などの行事で個性と団結の表現を見せてくれたこと、そして希望進路の達成に向けて一心に努力を続ける姿で挑戦の厳しさを教えてくれたことへの感謝の気持ちが伝えられました。

そして、卒業生からの答辞では、卒業生代表の庄子虎徹さんから、高校生活が始まった当初と高校生活半ばまでの不安と苦しさ、その中であって一生懸命行ってきた学校生活で経験した、仲間たちと努力することの大切さと達成感、そして、自分たちについてきてくれた後輩たちと、指導してくれた先生方への感謝の気持ちが述べられました。

厳粛な中にも、心の温かさや未来への希望が感じられる、素晴らしい卒業式となりました。

卒業式後には、学年委員長の小野崎有様より、保護者代表謝辞として、『生徒の心を育てるのは教室ではなく行事の場である』という思いと、その大切な行事が制限される中、苦慮しながらも可能な限り例年に近い形で行事を執り行ってきた本校職員への感謝の御言葉をいただきました。

その後、各クラスでは最後のホームルームが行われ、担任の先生方や同じクラスの仲間たちと高校生活最後の時間を過ごしました。

第46回生の皆さん、ご卒業誠にありがとうございます。

宮城県仙台向山高等学校の職員一同、皆さんの今後の活躍を心から祈っています。

